

〈論文〉

言語能力を育てるための教室活動  
—上級中国語会話授業を中心に

潘 潔 敏

はじめに

筆者は本学の孔子学院の上級中国語会話の講座を一年半担当してきた。学習者は中国語学習歴5年以上(週2時間, 学習時間合計約264時間)の社会人である。

学習者は言語技能においては読解力が強いものの, アンケート調査から「相手の言うことが聞き取れない」, 「話したくてもうまく話せない」, 「緊張してどう話していいかわからない」というようにコミュニケーションの強化を望んでいることがわかった。

こういう現状で, いかに学習者のニーズに応え, 教室活動を設計するのか課題となる。本稿は学習者のレベル, 学習者の関心, 興味, ニーズ, 話す行為のプロセスなどの要素を考慮に入れ, コミュニケーション能力向上のための教室活動を検討していきたい。

1. 上級中国語教室の学習者のレディネス

レディネスとは学習者がどのような状況にあるかということを目指す。上級中国語教室には学習者が8名いる。アンケートや宿題, 教室活動などを通して, 次のレディネスシートで, 学習者の学習動機, 学習意欲, 学習法, 性格, 言語適性, ニーズなどを把握しておいた。

レディネスに関する項目		チェック	
学習者のこと	年齢	20代, 2人25%を占め; 40代, 6人75%を占める	
	母国語など(何ヶ国語話せるか)	日本語, 全員100%を占める	
学習動機	何のために中国語の学習をするのか	趣味, 全員100%を占める	
	中国語の学習	どのぐらいのレベルか	hsk4級, 6人75%, 5級, 2人25%を占める
		どのような技能(話す, 書くなど)が得意か。	読解, 全員100%を占める
		どのような教科書でどのような所で学習したか。	漢語口語速成(提高編)13課まで 全員100%を占める

	外国語学習	中国語以外の外国語を学習したことがあるか	1人 12.5%を占める
		どのぐらいのレベルか	英文科大卒
	そのほか	学習者は言葉の学習以外にどのような分野が得意か	マラソン選手, 2人, 25%を占める
学習環境	時間	どのぐらいの期間学習する予定か	1年, 全員100%を占める
		自宅で学習時間がどのぐらいあるか	週に2時間以下, 2人25%, 4時間以上6人, 75%を占める
	機材	自宅でどんな機器を使っているか	パソコン, CDプレーヤー 7人87.5%を占める
	そのほか	学習者の周りに中国人がいるか	0人, 0%を占める
中国語を使う機会が多いか		0人, 0%を占める	
学習法	学習者はどのような練習方法が効果的だと思っているか		読解, 全員100%を占める
	学習者は普段どのような学習スタイルをとっているか。		読解, 全員100%を占める
	学習者は人前で発表することが好きか		0人, 0%を占める
	学習者は暗記することが得意か		2人 25%を占める
言語観, 学習観	学習者は中国語は難しいことばと思っているか		全員100%を占める
	学習者は授業中たくさんの知識を得たいと思っているか		全員100%を占める
	これから高めていきたい言語技能は何か		聴解力, 会話力, 全員100%を占める

主なデータをグラフで表示されると次のようである。

レディネスチェック

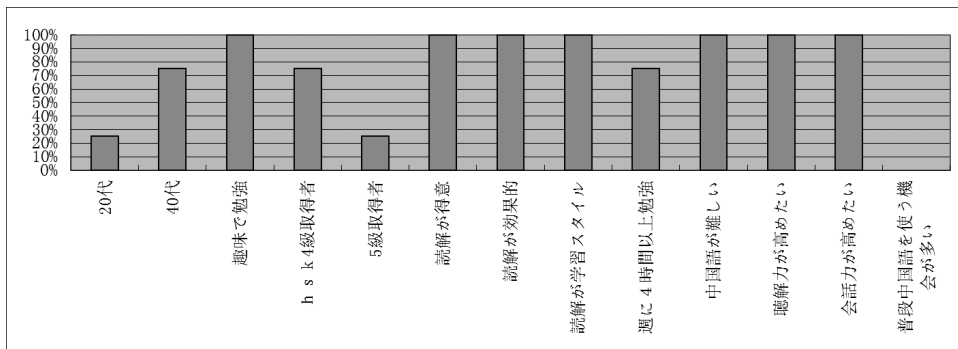


図 1

図1で分かるように、年齢は40代以上の学習者が大多数で、暗記より理解で習得するタイプである。全員 HSK4 級以上のレベルに達し、読解には自信を持っているようである。一方、普段中国語を使う機会がなく、上級の学習者であればあるほど恥をかくのを恐れ、人前で発表することを好まないのが、聴解、会話力の面が弱くそれを高めることを全員が希望している。動機づけは趣味で、これもいわゆる統合的に相当し、持続性はあるものの、緊張感が足りないようである。また全員が中国語が難しいと思っているので、教材や教授法を見直す必要がある。

これからの課題は、バリエイティ、且有効な教室活動を通し、学習者の潜在知識を活性化し、インターアクションを繰り返し、不安を取り除くことによって、楽しく学ぶ雰囲気の中で自然にアウトプットさせることである。要するに、話すチャンスを提供し、話す意欲および自信を引き出すことである。

## 2. 話す行為のプロセス

話す行為は、言いたい内容を考え、言いたい表現を選び、音声に出して相手に伝えるというプロセスをたどります。話し手と聞き手のコミュニケーションは「目的」と「情報差」「選択権」「反応」からなっている。教室活動を設計する際に、この4要素をとりいれて自然の会話に近い活動を企画すると、教育効果や学習者の学習意欲の向上につながる。

## 3. 言語能力とは

言語能力とは、何かについては1960年代半ばまでは文法知識だけが注目されていた。1970年代以降、さまざまな分野の研究者が言語能力を広くとらえるようになり、言語を使う能力も注目されるようになった。たとえば、社会言語学者の Hymes (1972) は、「文法規則をいかに使用するかを理解しなければ、文法の学習は無意味である」とのべ、「いつ、だれに対して、どのように話すのかといった言語使用の適切さに関する能力」を「コミュニケーション能力」(communicative competence) と名付けた。さらに、Cannal (1983) は、このコミュニケーション能力を①文法能力、②社会言語能力、③談話能力、④ストラテジー能力の4つにわけた。

①の「文法能力」とは文法規則、語彙の知識、発音、文字、表記などに関する能力で外国語教育では古くから注目されていた能力である。②の社会言語能力は相手との関係や場面に応じて、いろいろなルールを守って言語を適切に使用する能力である。たとえば目上の先生に講演会のあとに「老师、您的演讲太精彩了！（先生のご講演はすばらしかったです）」といったら社会ルールに反する場合がある。言葉を使用するときどのような話題

をどのような場面で、どのような人に向かって、どのような表現を使って、どのようにいえばいいのかは社会や文化できまっている固有のルールがある。そのようなルールを守ってことばを使う能力のことを社会言語能力という。③の談話能力は談話を管理し、組み立てることができる能力で、会話を始めたり、つづけたり、終わらせたり、話題を転換したりする、談話の管理を上手にできる能力だ。④のストラテジー能力はコミュニケーションがうまくいかなかったときに、自分や相手の発話をコントロールして修復する能力である。つまり、うまくコミュニケーションできないとき、いろいろな方法で工夫することができる能力だ。ストラテジー能力があれば、ほかのコミュニケーション能力（文法能力、社会言語能力や談話能力）が不足してもコミュニケーションの目的を達成することができる。この能力は初級の学習者には特に重要である。

次の表は4つのコミュニケーション能力の定義と各能力に関係する知識や技能をまとめたものである。

表1  
コミュニケーション能力と話す技能

	能力の定義	関連する技能と知識
文法能力	言語を正しく理解し、使用する能力	文法規則、語彙、発音（声調）、文字、表記
社会言語能力	相手との関係や場面に応じていろいろなルールを守って言語を適切に使用する能力	相手や場面によるスピーチスタイルの選択、話題の選択、非言語行動
談話能力	談話を管理し組み立てることができる能力	会話の開始、継続、終了の仕方、あいづちの打ち方、話題の転換や展開の仕方、発言の順番のとり
ストラテジー能力	コミュニケーションがうまくいかなかったときに自分や相手の発話をコントロールして修復する能力	自分の発話の調整（ほかの表現への言い換え、説明、母語使用）相手への援助要請（聞き返し）

授業計画を立てるとき、教室活動を展開するとき、上記の4つの言語能力をバランスよく伸ばすように考えなければならない。

#### 4. 学習者のレベルを判断する基準とは

上級会話授業の学習者はどのレベルにあるかという、学習者のレベルを判断するときにいろいろな基準があるが、ここでは、ACTFL-OPIを（The American Council on the teaching of Foreign Languages – Oral Proficiency Interview）を利用して、レベルについて考える。ATFL-OPIでは口頭(Oral)の到達度を(Proficiency)インタビュー

(Interview) によって測る。そこでは、言語に関する「知識」をはかるのではなく、言語を使ってどんなタスクができるかを、「機能・タスク」「場面・話題」「テキストの型」「正確さ」という4つの要素から総合的に判定する。つまり、OPIはインタビューを受けた人がどれぐらいその言語について知っているかではなく、その言語による、どのような会話活動がどのように、そしてどれだけできるかを図るためのテストである。レベルは初級(Novice)、中級(Intermediate)、上級(Adevanced) 超級(Superior)があり、レベル判定はACTFLが作ったガイドライン(『ACTFL 言語運用能力基準—話技能』[1999年改訂版])に沿って行う。

表2はACTFL(全米外国語教育協会)によるOPIの「判断基準」を簡単にまとめなおしたものです。

表2

レベル	N : Novice	I : Intermediate	A : Adevanced	S : Superior
コントロールできるテキストの型	単語や句で話す	独立した文または連文(一続きの意味を表わす連続した複数の文)で話す。	段落(一つの話題を複数の文のまとまり)で話す	副段落(話題を広範囲に取扱い、うまく構成された複数の長い段落)で話す。
できること	暗記した単語や表現で話す	質問をしたり、答えたりすることができる。日常的なことに対応する。(サバイバルの会話)	目前にないこと(物語、作業手順など)を説明、描写する。非日常的なこと(仕事、困難な状況、複雑な状況、非常時など)に対応する	どんな話題でも対応できる。フォーマル/インフォーマルの会話を使い分ける。(社会文化的適切さ)
具体的な言語活動の例	挨拶をする 名前や職業が言える	レストランで注文する。 電話でホテルの予約をする。	自分の町について詳しく説明する。 映画やドラマのあらすじを話す。 遅刻の理由を説明する。	政治問題について議論する。 上司の意見に反論する。 幼児とインフォーマルで話しをする。
正確さ	間違いが多い →→→→→→→→→			間違いがすくない

表2を参考にして、上級会話の学習者のレベルは中級(Intermediate)と上級(Adevanced)間にあることがわかった。教室活動の内容の難易度の設定はこの程度の範囲に収めなければならない。

## 5. 教室活動の設計

会話練習がいろいろあるが、本稿は「インタビュー」、「ディスカッション」、「スピーチ」「ロールプレイ」を取り上げる。これらの活動は日常生活の中で経験している「話す」という行為に近い活動で、コミュニケーションの要素（目的、情報差、選択権、反応）をいれることができる活動である。次は上級レベルの学習者の関心、興味、ニーズに合わせて設計した活動内容について説明しよう。

### 5.1 インタビュー活動

テレビや雑誌などを通じて普段私たちはインタビューに触れる機会がある。インタビューとは自分の聞きたいことについて、情報を持っていると思われる人に質問をして情報を得る活動である。会話の授業にこのような活動を通じてどのような言語能力を伸ばすことができるか、次の例を見てみよう。

以下は学生の発表の内容である。

テーマ 「あなたの趣味はなんですか。」

A. 你好！我听说你打网球打得很好。是真的吗？

B. 我会一点。

A. 你这么大年纪了，身体受得了吗？

B. 没事，年纪大的人打球，不是靠体力而是靠技巧。

A. 说的没错。顺便问一下，你是怎么喜欢上打网球的？

B. 说来话长。因为我的丈夫是转勤族，我每次跟着他换一个新地方，就要交新朋友。打网球是我结识朋友的方式，又能锻炼身体，所以就成了我的兴趣。

A. 转勤族？这是什么意思？

B. 就是经常在全国范围内，调动工作的人。

A. 那做太太也真的不容易。那你是几年前开始学的？

B. 我一下子也算不清楚了。我是在儿子上小学一年级时学的，算起来也有十几年了。

A. 哦，打了这么久了？那你一定打得很好。我也很想学打网球，有空一定要跟你学学。

B. 好，有空就约我吧。

このように、インタビュー活動を通じてまず育てられたのは文法能力で、インタビューで“说的没错”，“一下子”，“算起来”は新出文法事項の応用ができた。そして、社会言語能力も伸ばすことができる。“是真的吗？”，“你这么大年纪了”の使い方は文法的には問題がないが、ズバリと相手に確かめることは失礼なので、省略しなければおかしい会話に

なる。“转勤族？这是什么意思？”はストラテジー能力の表現方式で、聞き返しによって、会話をスムーズに進めた。また、“说的没错”，“说来话长”，“那做太太也真的不容易”などの相槌や会話の始まり、終わりがちゃんとできて会話の管理がうまくクリアして談話能力を養うことができた。

インタビュー活動を通じ育てることのできる主なコミュニケーション能力はインタビュー会話を開始、継続、終了させたり、聞き手として、相手の話をうながしたり、自分の理解や感想を示したりする能力（談話能力）と目的達成のために不足している言語能力を補う工夫をする能力（ストラテジー能力）である。学習者の興味や関心があり、言語学習だけが目的ではないインタビュー活動をすることにより、より現実のコミュニケーションに近い練習ができる。

インタビューが終了した後、「インタビュアー」から結果を報告することも大切な一環だ。クラス全員に評価シート（5.3のスピーチ活動の評価シート参照）に記入してもらおう。この作業によってクラス全員が自分ができたこと、できなかったことに気づき、これから能力アップにつながるができる。

#### 結果報告例

A 同学打网球打得很好。她虽然不是那么年轻了，但打起网球来，并不感到吃力。因为她说，不能刚靠体力，而是要靠技巧。看起来，她的技巧真不错。她说她之所以喜欢上打网球，是因为她先生是“转勤族”。每次跟着先生调动，去一个新地方，她就得交新朋友，打网球是她交新朋友的手段。听了她的一番话，看到她兴致勃勃的样子，我也被她感染了。我说我想跟她学打网球，她爽快地答应了。

インタビュー活動の流れを次の表3にまとめてみた。

表3

段階	活動を組み立てるためのチェック項目
準備活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 話題をどう決めるか</li> <li>□ 必要な表現の練習をどのようにするか (インタビューの開始と終了、次の質問へ移る時の表現)</li> <li>□ インタビューモデルを示すか、示す場合、どのようなモデルをどのように示すか</li> <li>□ 評価シートをいつ示すか</li> </ul>
②活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ どのようにインタビューさせるか (目的と活動のステップをはっきりさせる)</li> </ul>

③まとめ	ロ インタビューの結果を報告するか（発表） ロ 評価がだれがどのように行うか（発表者以外，クラス全員評価シート記入）
------	---

## 5.2 ディスカッション活動

ディスカッションとはある問題について、複数の人数で互いに情報や意見を交換することだ。

5.1のインタビューでは「インタビュアー」と「インタビュー」にこたえる人が決まっている。一方、ディスカッションでは複数の人が交互に話したり、聞いたりする。そのため、自分が話す順番をとったり人に話す順番を与えたりするための談話能力が重要になる。また、相手に意見を効果的に伝えるための社会言語能力も大切だ。相手を説得するためには論理的な思考や幅広い知識も必要だ。

活動例：忘年会の計画

年末にクラスで忘年会をする予定。4人ぐらいのグループで、話し合って、時間、予算、会場をきめる。

何日にするかきめる。

予算をきめる。

次のことについてそれぞれ担当者をきめて調べたり、考えたりして情報を持ち寄る。

- ・ 皆さんの好み、好きな料理
- ・ 予算にあった店（インターネット、レストランのパンフレットの利用、実際にお店をみるなど）

グループで店をきめて発表する。

実際のディスカッション活動例：

忘年会の計画

主持：今天我们讨论一下忘年会的计划。大家先把时间和预算定一下吧。

时间我觉得定在晚上比较好。晚上喝酒才有气氛。

- A. 晚上好是好，但是有些同学住得远，而且冬天的晚上，路面都结冰了，年纪大的同学会更危险。
- B. 是啊。那我们2点半下了课后开始怎么样？
- C. 2点半？这是午饭还是晚饭啊？
- D. 那我们去喝喝茶，或唱唱K怎么的，也行。

主持：那大家回去查查2点半后有什么选择的餐厅，要是可以的话，就避免在晚上举行。



大家觉得怎么样？

大家：好。

主持：具体的日期也定下来吧。

A.12月初怎么样？

B. 是啊，越到后面，大家会越忙。早点好。

C.12月初我要出差啊。

D. 那11月底怎么样？

大家：好啊。

主持：那就定在11月的最后一次课后吧。大家同意吗？

大家：同意。

主持：还有预算，还是和往年一样3000日元左右，行吗？

大家：行。

主持：那咱们都回去查查。

上記の会話にしめたように、メンバーひとりひとりが順番に自分の意見を発表することになっているが、反対意見を話す前に、まず相手の意見をある程度認めたりして社会言語能力を十分発揮している。また、司会者がディスカッションの始まり、継続、終わりのコツも生かして、談話能力を備えている。

この活動例のように目的と活動のステップをはっきりさせた方が学習者が発話しやすくなる。

話題の設定も学習者の興味があるテーマに設定すると学習者の参加意欲が高まる。たとえば中国人の観光客が多いので、「観光都市としての札幌のおもてなし」とか、また逆に中国へ観光する学習者もたくさんいるので、「観光客として中国の町へのアドバイス」とか、「中国観光で一番印象に残っている出来事」とか、そのほかに健康や料理など話題も喜ばれる。

最後に、各グループの発表について評価シートを記入してもらおうと発表者も聞き手も今後の取り込みにプラスになることだ。

#### 評価シートの例

評価シート	発表者名：	評価者名：
1) どんな話だったか。		
2) 話の一番おもしろかったところはどこか		
3) わかりやすかったか		
4) 声の大きさ、話の速度や間の取り方は良かったか		
5) その他		

ディスカッション活動の流れを次の表4にまとめた。

表4

段階	活動を組み立てるためのチェック項目
準備活動	<input type="checkbox"/> 話題をどう決めるか <input type="checkbox"/> 必要な表現の練習をどのようにするか <input type="checkbox"/> 話題に関する知識をどのように得るか <input type="checkbox"/> 評価シートをいつ示すか <input type="checkbox"/> 人数や司会や記録などをどのようにきめるか
②活動	<input type="checkbox"/> どのようにディスカッションさせるか（目的と活動のステップをはっきりさせる）
③まとめ	<input type="checkbox"/> ディスカッションの結果を報告するか（発表） <input type="checkbox"/> 評価がだれがどのように行うか（発表者以外、全員評価シート記入）

### 5.3 スピーチ活動

スピーチとは話し手が一人で多数の人の前で、まとまった話をするることである。スピーチはその目的によって次の3つにわけられる。

- A. 情報提供型スピーチ：物、人、方法、仕組み、出来事、現象、概念、理論について説明、紹介するスピーチ
- B. 意見表明型スピーチ：自分の考えや思いを述べるスピーチ
- C. 社会的目的型スピーチ：結婚式、卒業パーティなどの何かの集まりで行うスピーチ

授業でスピーチ活動を行う際に考えなければならないこととして、1) スピーチの話題、2) 授業におけるスピーチの時間のとり方、3) スピーチの準備と練習のさせ方の3点が取り上げられる。

上級学習者に適した話題として「私の友人」、「中国語を習ったきっかけ」、「私の趣味」などいろいろテーマがとりあげられる。設定としては授業の時間をたくさん取らないように一回の授業で発表者を一人に指定する。授業前に発表者に準備させておく。スピーチの準備作業は学習者のレベルとスピーチの目的や場面によってかわってくる。その準備には3つのタイプがある。

- 1) スピーチの全部の原稿を書く。
- 2) スピーチのアウトラインだけをメモ程度に書く。
- 3) スピーチのアウトラインを頭の中で考える。

レベルからみれば、初級、中級レベルの学習者には1)がすすめで、2)、3)はそれぞれ上級、超級レベルに適する。1)の場合、原稿を用意したスピーチは内容、構成、使

用表現に関して、よく考える時間あるため、間違いが少なく、構成のしっかりした、わかりやすいスピーチになる可能性が高くなる。その一方で原稿をよむだけになったり暗記して話すだけになることも考えられ、聞き手を無視したスピーチになる可能性がある。

準備の段階では全員話すチャンスを提供するために、聞き手から質問する形で準備させる。原稿の前に発表者は話題を出してクラス全員から質問をうける。

活動例：話題は“お正月到北京へいってきました”

- A. 你新年放假是怎么过的？  
B. 我去了北京。  
C. 你去了几天？  
B. 从12月27日到31日，共五天。  
D. 你都去了哪里了？  
B. 去了故宫，长城，天坛，颐和园，天安门，王府井等等。还去了北京大学和清华大学。  
E. 感觉怎么样？  
B. 很好。一是空气还不错，比想象的要好得多。二是北京大学和清华大学的学术气氛很浓。适逢我们去的那天是研究生入学考试日，让我们亲眼看到了学生勤奋学习的风貌。  
F. 有没有其他印象很深的事情？  
B. 这个嘛，让我想想。我觉得中国的导游非常敬业。虽然我听得不太懂，但是我看到她的表情都会受到她的感染。  
G. 是这样啊？那你看了那么多景点，你的感觉怎么样？  
B. 我觉得中国不愧为文明古国，我为古人之智慧，建筑之雄伟而惊叹，其规模之大是我们无法想象的。  
H. 那参观王府井等中心城区的感想，你也能说说吗？  
B. 很热闹，到处可见高楼大厦，整个城市充满活力。大家有机会的话，值得一去。

このように発表者がクラス全員とのインターアクション（会話）によって、原稿の作成が簡単化されるし、聞き手も会話の練習ができて一石二鳥の効果がある。

発表の例

北京旅游归来之感想

大家好！

我叫田中。我今年寒假去了北京。我想给大家介绍我的北京之旅。

这次旅行我去了。去了故宫，长城，天坛，颐和园，天安门，王府井等等。还去了北京大学和清华大学。我是第一次去北京。我对北京的印象很好。一是空气还不错，比

想象的要好得多。二是北京大学和清华大学的学术气氛很浓。 适逢我们去的那天是研究生入学考试日，让我们亲眼看到了学生勤奋学习的风貌。

这次旅行的感想主要有3点想和大家分享。一是中国的导游非常敬业。虽然我听得不太懂，但是我看到她的表情都会受到她的感染；二是中国不愧为文明古国，我为古人之智慧，建筑之雄伟而惊叹，其规模之大是我们无法想象的；三是很热闹，到处可见高楼大厦，整个城市充满活力。大家有机会的话，值得一去。

発表の段階では、実際話すときにはそのメモ程度のもを見て話すなど、できるだけききてとのインターアクションを意識したスピーチをさせるように指導する。また、フィラーを使って時間を稼ぐことができる能力（ストラテジー能力）が大事だが、使いすぎには気をつけるように指導する。

発表のあと、聞き手が評価をすることは全員参加させる方法がある。

#### 記述評価シートの例

評価シート	発表者名：	評価者名：
1) どんな話だったか。		
2) 話の一番おもしろかったところはどこか		
3) わかりやすかったか		
4) 声の大きさ、話の速度や間の取り方は良かったか		
5) その他		

#### 点数式の評価シートの例

内容と構成	① 「導入」, 「本論」, 「結論」の構成や流れがしっかりしていたか。	点数
	② 「導入」ではテーマを選んだ理由を簡単に説明したか	
	③ 「本論」では内容と結果をうまくまとめて伝えたか	
	④ 「結論」では本論をまとめたうえで、自分の意見をのべられていたか	
	⑤ おもしろかったか	
発表の仕方	⑥ 聞き手の顔や反応を見ながら発表ができていたか	
	⑦ 声の大きさや話すスピードにきをつけながら話していたか	
	⑧ 制限時間を守れたか	
	⑨ 聞き手を巻き込む（参加させる）発表の仕方だったか	
	⑩ 使っている資料やツールはわかりやすく、使い方は効果的だったか	
合計	1点：～ない, 2点：あまり～ない, 3点：大体～, 4点：とても～	/40

記述評価シートの利点は聞き手の主体性があり、作文力の向上にもつながるが、点数式の評価シートは「内容と構成」, 「発表の仕方」を評価することによって、聞き手自身のこれからのスピーチ力のアップに大変役に立つ。評価する際に、両方のシートを使うのはベストだが、できない場合は交替で使うとよい。

スピーチ活動を組み立てるための各段階を次の表5にまとめてみた。

表5

段階	内容とチェックポイント
①準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 話題や制限時間を決める。</li> <li>□ クラスで聞き手から質問をうける（発表内容の相談、具体化）</li> <li>□ 発表者が原稿作成</li> </ul>
②活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 立って発表する</li> <li>□ 一回の授業に一人発表</li> </ul>
③まとめと評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 聞き手にスピーチの内容に質問させたり、感想をいわせたりする</li> <li>□ 評価シートを書かせる</li> </ul>

#### 5.4 ロールプレイ活動

決められた状況や場面で、学習者がある役割になって、自分で表現を選んでコミュニケーションをする練習をロールプレイと呼ぶ。「インタビュー」、「スピーチ」、「ディスカッション」もロールプレイの形で授業に取り入れることができる。

ロールプレイを通して、全てのコミュニケーション能力を育成することが可能だが、特に自分の役割と状況に応じて会話をはじめ、相手とやりとりし、会話を終えるために必要な談話能力を育成する練習ができる。また、話す相手や場面に合わせてコミュニケーションの取り方を調整するという社会言語能力を養う練習も特に行いやすいと言えるだろう。

##### 活動例

ステップ1. ロールプレイカードと評価シートを示す。

###### ロールプレイカード A

役割：中国人留学生の友達（日本人）

話す相手：中国人留学生

話す内容：天気がいいからいっしょにでかけることをさそう

###### ロールプレイカード B

役割：中国人留学生

話す相手：中国人留学生の友達（日本人）

話す内容：いそがしいので、断る

評価シート

ロールプレイ評価シート	発表者名：	評価者名：	点数
1) 表現を正確になめらかに使えたか（文法能力）			
2) 会話の流れを自分でつくりあげることができたか（談話能力）			
3) コミュニケーションがうまくいかなかった時の対応の仕方 （ストラテジー能力）			
4) 表情や体の動きなどの非言語行動			
合計	1点：～ない， 2点：あまり～ない， 3点：大体～， 4点：とても～		/40

ステップ2. 学習者が評価の基準をもとに自分の持っている力で練習する。

ステップ3. “*的话*”, “*除了*” “*实在*” “*一言为定*” などの難しい文型や表現を確認しながら、練習する。会話の始まり、継続と終わりの方法を説明する。モデルをしめす。

<p>モデル会話：</p> <p>A. 晚上好！是小李吗？我是田中。</p> <p>B. 啊，田中，你好！</p> <p>A. 这两天天气很好，明天你有时间的话，我们一起出去玩玩，怎么样？</p> <p>B. 是啊，上周一直下暴风雪，除了上课，打工就待在房子里，很闷。今天好不容易万里晴空，我也真想到外面走走啊，不过——。</p> <p>A. 不过什么？</p> <p>B. 最近忙得不可开交啊，因为到了期末，有些科目要闭卷考试了，有些科目要交学期论文。实在是抽不出时间。</p> <p>A. 那太遗憾了。</p> <p>B. 是啊，不过到了下个月就有空了。我们到时再约，好吗？</p> <p>A. 好啊，一言为定。再见。</p> <p>B. 再见。</p>
---

ステップ4. 学習者に評価シートを記入してもらう。これからの注意点をメモしておく。

授業の流れは次の表6にまとめてみた。

表6

<p>①ロールプレイ，（評価シートを示す）</p> <p>「友達を誘ったり，誘いをことわったりする」という状況のロールプレイを自分が持っている力でする。</p>
<p>②表現の確認と練習</p> <p>誘うときや断る時に使う表現など，①で十分にできなかったものの説明や練習をする。</p>

③ロールプレイ 誘う、断るという状況や役割でロールプレイをする
④学習者に評価シートを記入してもらう

表6に示したように上級の学習者がある程度語学力を持っているので、先にモデルを示さずに自分が持っている力で会話させる。これこそ、現実のコミュニケーションに近いと言える。そして、学習者のできることとできないことをはっきりさせることができる。教室では、うまくいかなかった部分を中心に表現や文型を練習するので、効率よく学習ができると思う。

## 6. お終りに

以上、インタビュー、ディスカッション、スピーチ、ロールプレイといった4つの教室活動から、クラスの運営方法を検討してきた。

教育現場と企画との間にはギャップがある。クラス全員のレベルはバラバラの場合もあるし、会話を嫌がる学習者もいる。実際に実施するとき、その時その時の学習者の様子を観察しながら、授業をすすめなければならない。教師がその日の学習者の体調や気分に注意したり勉強の遅れがちな学習者に目を配ったりしなければ円滑なクラス運営は難しい。その上、決められたカリキュラムの中でその日のノルマをこなさなくてはならない。

これからも教育実践活動を続け、データを収集することによって、一層有効かつ合理的な教室活動を図っていきたい。

## 参考文献

1. 『辞源』. 商務印書館 .2010年
2. 小柳かおる：『日本語教師のための新しい言語習得概論』. スリーエーネットワーク .2010年
3. 陳垣銘 etc. 『中国の世界遺産』. 北京語言大学出版社 . 2009年
4. 傅海燕. 『汉语教与学必备（上）』. 北京語言大学出版社 . 2008年
5. 傅海燕. 『汉语教与学必备（下）』. 北京語言大学出版社 . 2008年
6. 馬箭飛. 『汉语口语速成（提高篇）』. 北京語言大学出版社 . 2008年
7. 国家漢办. 『国际汉语教学通用课程大纲』. 外语教学与研究出版社 . 2008年
8. 国際交流基金：『日本語教師の役割 / コースデザイン』(p11). 株式会社ひつじ書房 .2009年
9. 国際交流基金：『話すことを教える』(p48). 株式会社ひつじ書房 .2009年
10. 任長慧, 朱敏琪『説話得休』 商務印書館 .2008年
11. Canale, Michael (1983) From communicative competence to communicative language pedagogy. Jack C. Richards and Richard W. Schmidt (eds) *Language and Communication*. London: Longman
12. Hymes, D (1972) On communicative competence. Pride, J. B. and J. Holmes (eds) *Sociolinguistics: Selected readings*. Baltimore: Penguin

13. ACTFL (全美外国語教育協會) : <http://www.actfl.org/>

執筆者紹介

広東外語外貿大学副教授, 札幌大学客員教授